

ダビデ  
聖徒伝 88

# 「神への忠実を貫こう」

I サムエル記23～24章      ダビデ、洞穴でサウルを見逃す

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 荒野の追撃と逃走 23章  
～詩篇54篇～
- II. ダビデ、サウルを見逃す 24章  
～詩篇57篇～
- III. まとめと適用  
ダビデが見つかった希望の源



【無垢の時代】  
天地創造

【良心の時代】  
墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】  
バベルの塔事件

【約束の時代】  
アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】  
イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】  
聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】  
千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

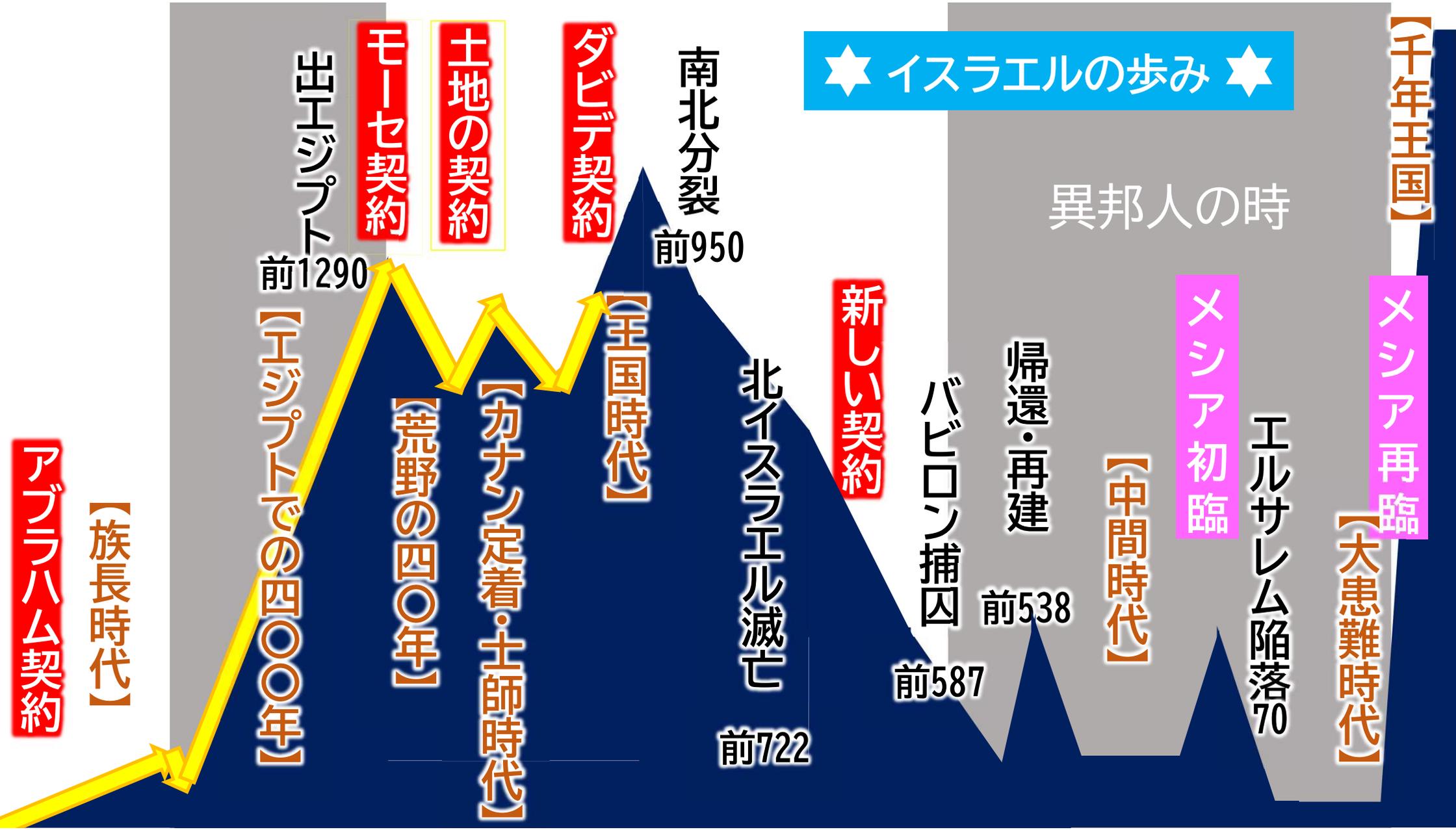
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落

70

メシア初臨

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

サムエル記 第一

士師時代

サムエル	1:1~2:11	サムエルの誕生
サムエル	2:12~3:21	サムエルの召命
サムエル	4:1~7:17	奪われた契約の箱
サムエル	8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

王政時代

サウル	10:11~11:15	油注ぎ
サウル	12:1~25	士師サムエルの民への告別
サウル	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
ダビデ	16:14~23	王宮での奉仕
ダビデ	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
ダビデ	18:1~30	偉大な戦績・王の娘との結婚
ダビデ	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
ダビデ	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
ダビデ	31:1~13	サウルの死



## 【ダビデの油注ぎ】 I サムエル11~17章

- サウルは、主に背き、神の目に、王権すら剥奪された。  
→ 主の霊はサウルを去り、悪霊に苛まれる日々に。
- 神は、御心に叶った**真実の王**を立てた。それがダビデ。  
ユダのベツレヘム。エッサイの8番目の子に油注ぎが。  
→ **この日以来、主の霊はダビデに激しくくださった。**
- 当初、豎琴弾きとしてサウルに仕えていたダビデは、  
ペリシテの巨人ゴリヤテを倒し、兵士として名を挙げた。
- “サウルは千を討ち、ダビデは万を討った”  
民の歌に、サウルは、ダビデに激しい嫉妬を抱いた。



## 【ダビデの逃亡】 I サムエル18～22章

- サウルのダビデへの嫉妬は、殺意に変わった。  
ダビデは、ヨナタンと別れ、一人、荒野に逃れた。
- ペリシテ人の町ガデに逃げたダビデは捕らえられ、  
気がおかしくなったふりをして難を逃れた。
- サウル王は、祭司アヒメレクと一族を、ダビデを支援  
したことで厳しく咎め、虐殺した。
- エブヤタルが一人生き残り、ダビデの元に逃れてきた。  
親族や困窮者たち400名がダビデの元に集っていた。



## 【この時点でダビデがメシアについて知っていたこと】

- “女の子孫”として生まれ、犠牲を払い、悪魔に勝利。(創世記3:15)
- アブラハム → イスラエル → ユダの子孫に生まれる。(創世記49:10)
- 「**ダビデ契約**」を神と結ぶのは、イスラエルの王となってから。
  - ➔ この契約で、**ダビデ王家の子孫にメシアが誕生すると明らかに。**
- しかし、「**ダビデの詩篇**」には、多くのメシア預言が!!
  - ➔ **聖霊に満たされたダビデが神にささげた賛歌。**
- ダビデは、苦難の中、約束のメシアに救いを求め、神から与えられた断片的なメシアの姿を歌った。





# I. 荒野の追撃と逃走

I サムエル記23章

ユダの荒野

## 【ペリシテ人の略奪隊】 I サムエル23:1～2

「今、ペリシテ人がケイラを攻めて、打ち場\*を略奪しています」と言って、ダビデに告げる者がいた。

ダビデは【主】に伺って言った。「行って、このペリシテ人たちを討つべきでしょうか。」【主】はダビデに言われた。「行け。ペリシテ人を討ち、ケイラを救え。」

\*麦打ち場(脱穀場) …収穫した作物を略奪に来た。

時期は、4～5月頃。

➡これ以降のダビデの逃走は、乾期のことか。



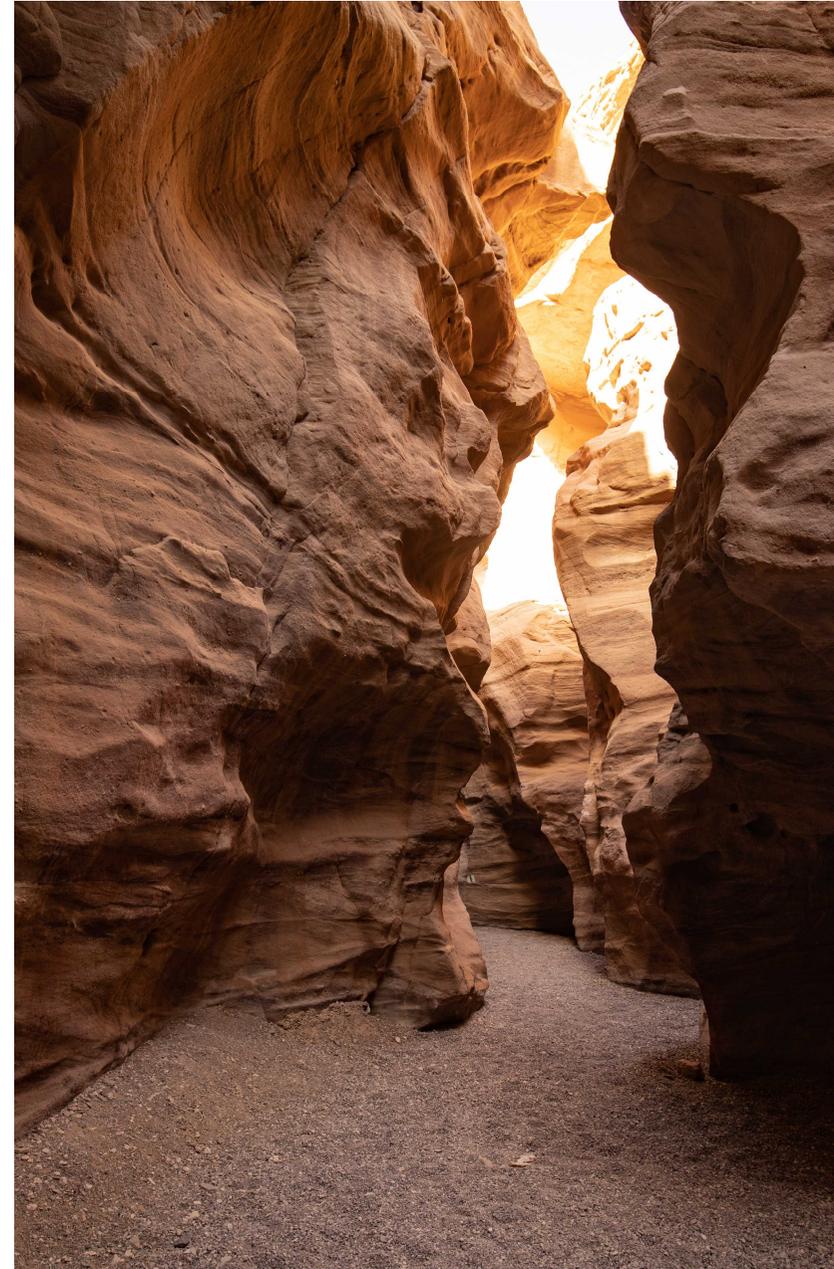
## 【たじろぐ部下たち】 I サムエル23:3~4

ダビデの部下は彼に言った。「ご覧のとおり、私たちは、**ここユダにいてさえ\*** 恐れているのに、ケイラのペリシテ人の陣地に向かって行けるでしょうか。」

ダビデはもう一度、【主】に伺った。すると【主】は答えられた。「さあ、ケイラに下って行け。わたしがペリシテ人をあなたの手に渡すから。」

**\*ホームグラウンドのユダにいてさえ…。**

**まして、アウェイの戦いに臨むなど。**



## 【祭司エブヤタルとエポデ】 I サムエル23:5~6

ダビデとその部下はケイラに行き、ペリシテ人と戦い、彼らの家畜を奪い返し、ペリシテ人を討って大損害を与えた。こうしてダビデはケイラの住民を救った。

アヒメレクの子エブヤタルは、ケイラのダビデのもとに逃げて来たとき、**エポデ\*** を携えていた。

**\*エポデ** …大祭司が着る装束。ワンピースの織物。

■一番上が、12部族を示す12の宝石で飾った胸当て。

この胸当てに、裁きの石**ウリム**と**トンミム**を入れた。

➡この石で、神に伺いを立てた。イエスか、ノーか。

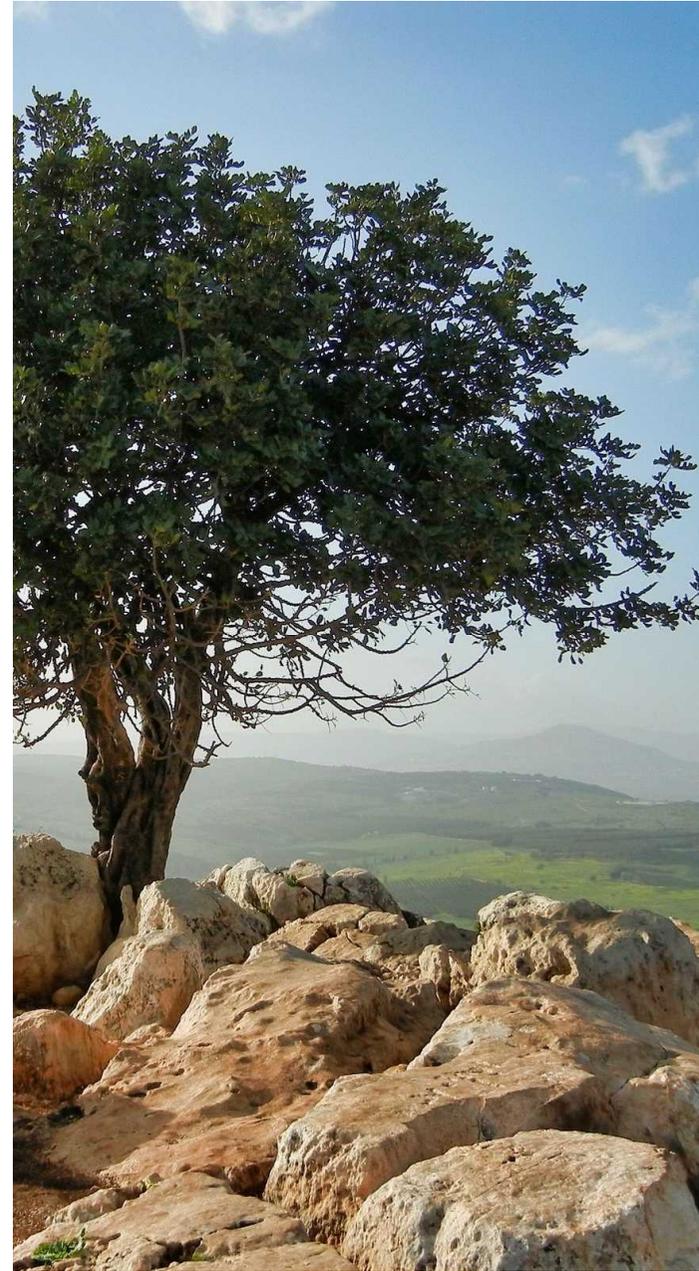


## 【兵を召集するサウル】 I サムエル23:7~8

一方、ダビデがケイラに来たことがサウルに知らされると、サウルは、「神は彼を私の手に渡された。彼は扉とかんぬきのある町\* に入って、自分自身を閉じ込めてしまったのだから」と言った。

サウルは、ケイラへ下ってダビデとその部下を攻めて封じ込めるため、兵をみな召集した。

\*この時代の町は、基本、城壁に囲まれていた。



## 【迫る危機】 I サムエル23:9～11

ダビデは、サウルが自分に害を加えようとしているのを知り、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」

そしてダビデは言った。「イスラエルの神、【主】よ。しもべは、サウルがケイラに来て、私のことで、この町を破壊しようとしていることを確かに聞きました。

ケイラの者たちは私を彼の手引きに引き渡すでしょうか。サウルは、しもべが聞いたとおり下って来るでしょうか。イスラエルの神、【主】よ。どうか、しもべにお告げください。」  
【主】は言われた。「彼は下って来る。」

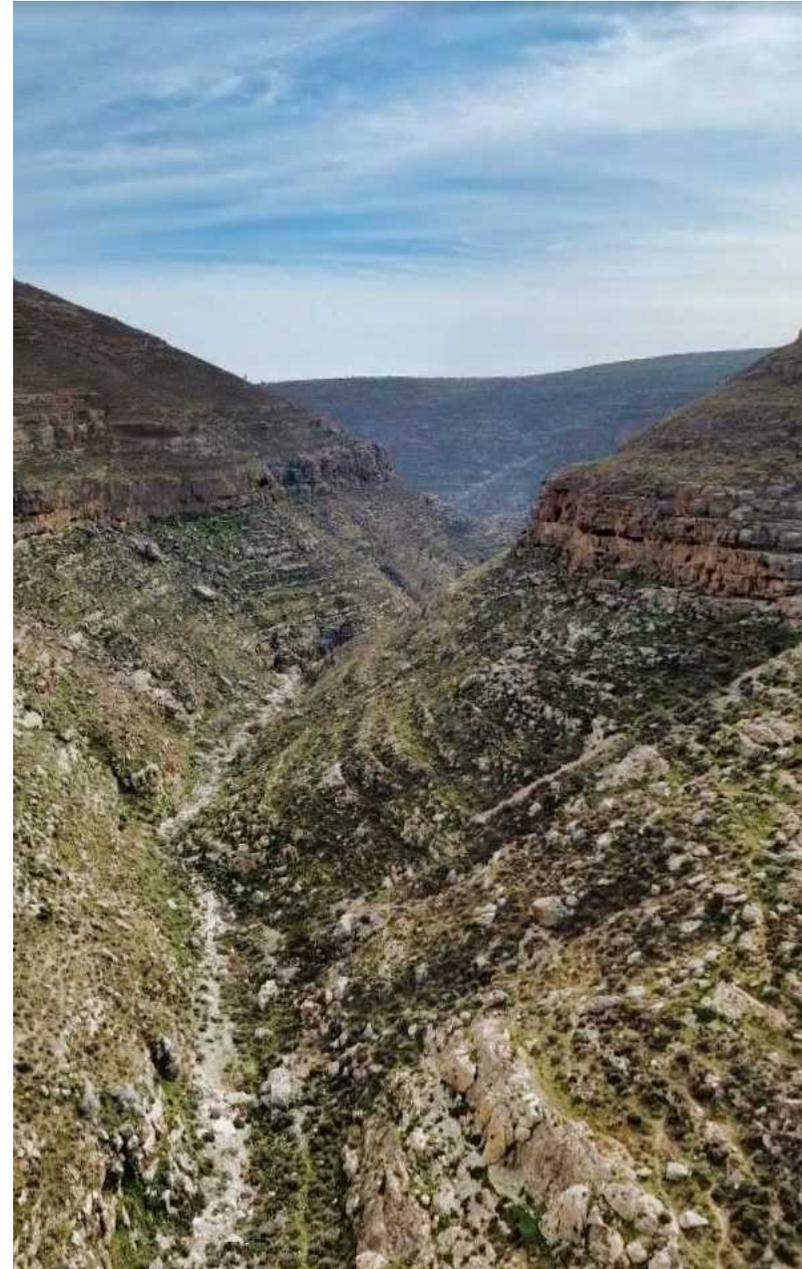


## 【逃れるダビデ】 I サムエル23:12~13

ダビデは言った。「ケイラの者たちは、私と私の部下をサウルの手に引き渡すでしょうか。」

【主】は言われた。「彼らは引き渡す。」

ダビデとその部下およそ六百人は立って、ケイラから出て行き、そこここと、さまよった。ダビデがケイラから逃れたことがサウルに告げられると、サウルは討伐をやめた。



## 【ジフの荒野にて】 I サムエル23:14～15

ダビデは、荒野にある要害に宿ったり、ジフの荒野の山地に宿ったりした。サウルは、毎日ダビデを追い続けたが、神はダビデをサウルの手に渡されなかった。

ダビデは、サウルが自分のいのちを狙って、戦いに出て来たのを見た。そのとき、ダビデはジフの荒野のホレシュにいた。



## 【ヨナタンの訪問】 I サムエル23:16～18

サウルの息子ヨナタン\* は、ホレシュのダビデのところに行って、神によってダビデをカづけた。

彼はダビデに言った。「恐れることはありません。父サウルの手が、あなたの身に及ぶことはないからです。あなたこそ、イスラエルの王となり、私はあなたの次に立つ者となるでしょう。父サウルも、そうなることを確かに知っているのです。」

二人は【主】の前で契約を結んだ。ダビデはホレシュにとどまり、ヨナタンは自分の家に帰った。

ダビデと連絡をとりあっていた？ 警告も？



## 【ジブ人の密告】 I サムエル23:19～21

ジブ人たちは、ギブアのサウルのところに上って行って、言った。「ダビデは私たちのところに隠れているではありませんか。エシモンの南、ハキラの丘のホレシュにある要害に。

王よ。今、下って行こうとお思いでしたら、下って来てください。私たちが彼を王の手に引き渡します。」

サウルは言った。「【主】の祝福があなたがたにあるように。あなたがたが私のことを思ってくれたからだ。」



## 【先兵の派遣】 I サムエル23:22～23

「さあ行って、さらに確かめてくれ。彼が足を運ぶ場所と、だれがそこで彼を見たかを、よく調べてくれ。彼は非常に悪賢いとの評判だから。

彼が潜んでいる隠れ場所をみな、よく調べて、確かな知らせを持って、ここに戻って来てくれ。そのとき、私はあなたがたと一緒に行く。彼がこの地にいるなら、ユダのすべての分団のうちから彼を捜し出す。」

- 今度は逃さないと、周到に情報収集するサウル。  
裏切り者もあぶりだして、一網打尽ということか。

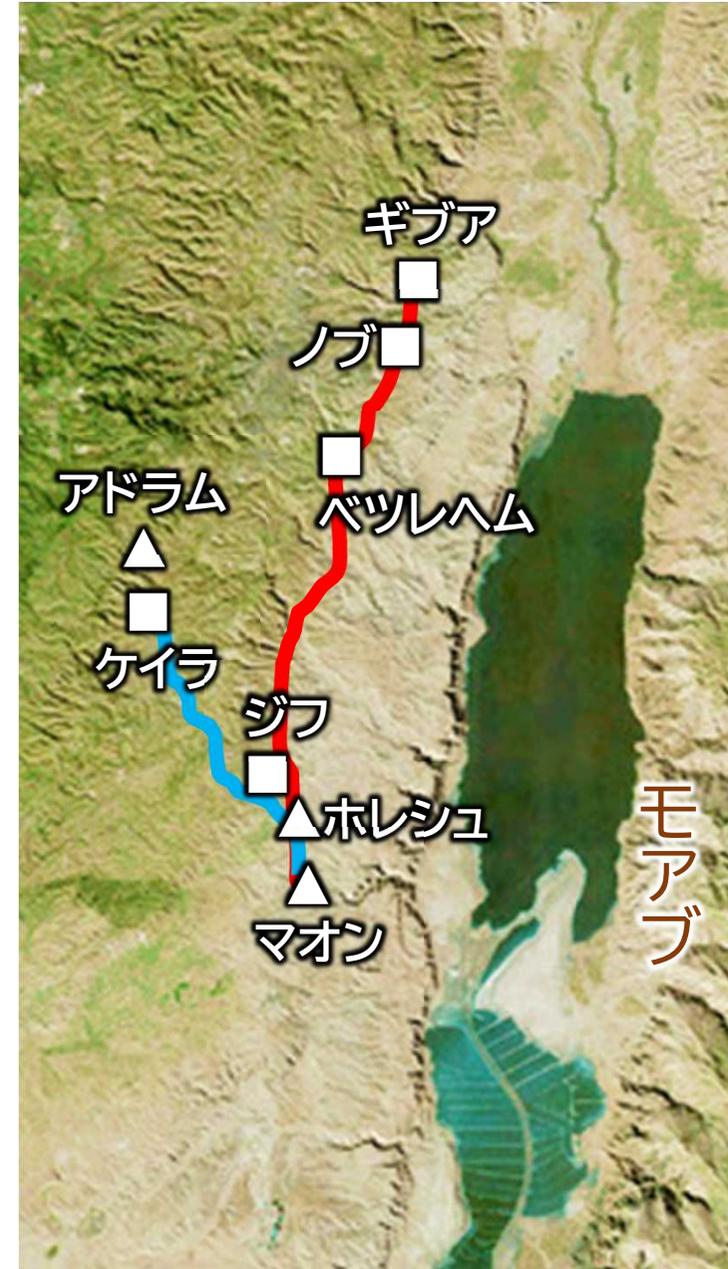


## 【追われるダビデ】 I サムエル23:24-25

彼らはサウルに先立ってジフへ行った。一方、ダビデとその部下は、エシモンの南のアラバにあるマオンの荒野にいた。

サウルとその部下はダビデを捜しに出て行った。このことがダビデに知らされたので、彼は岩場に下り、マオンの荒野にとどまった。サウルはこれを聞き、マオンの荒野でダビデを追った。

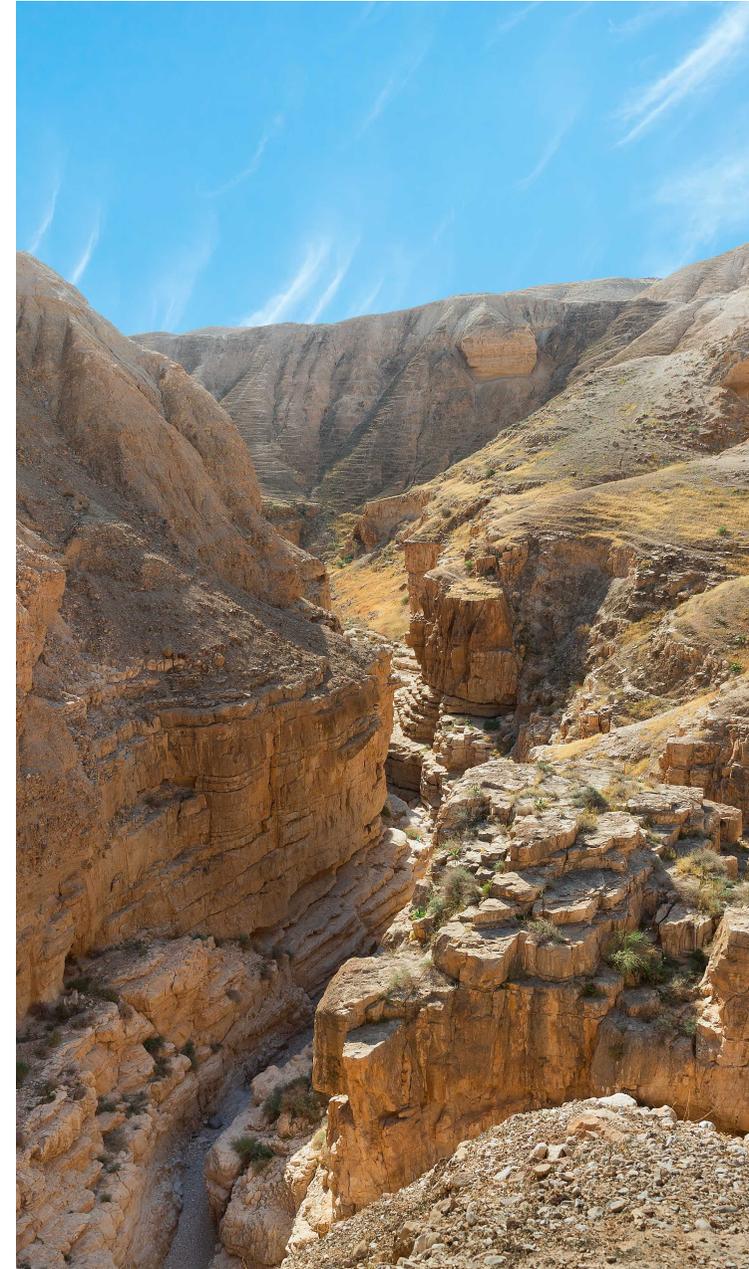
■ダビデが逃れたのは、荒野でも岩場が続く、さらに厳しい土地。命がけの逃走。



## 【運命の分かれ道】 I サムエル23:26～27

サウルは山の一方の側を進み、ダビデとその部下は山のもう一方の側を進んだ。ダビデは急いでサウルから逃れようとした。

サウルとその部下が、ダビデとその部下を捕らえようと迫って来たとき、一人の使者がサウルのもとに来て、「急いで来てください。ペリシテ人がこの国に襲いかかって来ました」と言った。



## 【エン・ゲディへ】 I サムエル23:28～29

サウルはダビデを追うのをやめて帰り、ペリシテ人の方に向かった。こういうわけで、この場所は「仕切りの岩山」\*と呼ばれた。

ダビデはそこから上って行って、エン・ゲディ  
\* の要害に住んだ。

\*「分かれの岩(口語訳)」

\* 岸壁がそそり立つ死海のほとりのオアシス。

■ 信仰を深めるダビデと、闇に陥るサウロと、大きく分かれていった二人の道。



# 詩篇 54 篇

指揮者のために。弦楽器に合わせて。  
ダビデのマスキール。

ジフの人たちが来て、サウルに  
「ダビデは私たちのところに隠れているのでは  
ありませんか」と言ったときに。

- 54:1 神よ あなたの御名によって 私をお救いください。  
あなたの力強いみわざによって 私を弁護してください。
- 54:2 神よ私の祈りを聞いてください。  
私の口のことばに耳を傾けてください。
- 54:3 見知らぬ者たちが私に立ち向かい  
横暴な者たちが私のいのちを求めています。  
彼らは神を前にしていません。セラ

54:4 見よ神は私を助ける方。

主は私のいのちを支える方。

54:5 神は 私を待ち伏せる者たちに  
わざわいをもって報いられます。

あなたの真実によって 彼らを滅ぼしてください。

54:6 私は 心からのささげ物をもって  
あなたにいけにえを献げます。

【主】よ あなたの御名に感謝します。すばらしい御名に。

54:7 神がすべての苦難から私を救い出し  
私の目が敵を平然と眺めるようになったからです。



Ⅱ. ダビデ、サウルを見逃す

I サムエル記25章

エン・ゲディ

## 【サウル軍の討伐隊】 I サムエル24:1~2

サウルがペリシテ人を追うのをやめて帰って来たとき、「ダビデが今、エン・ゲディの荒野にいます」と言って、彼に告げる者がいた。

サウルは、イスラエル全体から三千人の精鋭を選び抜いて、エエリムの岩の東に、ダビデとその部下を捜しに出かけた。



## 【洞穴の中で】 I サムエル24:3~4

道の傍らにある羊の群れの囲い場に来ると、そこに洞穴があった。サウルは用をたすために\* 中に入った。そのとき、ダビデとその部下は、その洞穴の奥の方に座っていた。\*

\* 威厳ある王が人前でというわけにはいかない。

当然、部下が洞穴の中も調べたはずだが…。

\* 付近に分散して隠れていたのだろう。



## 【洞穴の中で】 I サムエル24:4

ダビデの部下はダビデに言った。「今日こそ、【主】があなた様に、『見よ、わたしはあなたの敵をあなたの手へ渡す。彼をあなたの良いと思うようにせよ』と言われた、その日です。」ダビデは立ち上がり、サウルの上着の裾を、こっそり切り取った。

【申命記23:12～14】 また、陣営の外に一つの場所を設け、そこへ出て行って用をたすようにしなければならない。武器とともに小さな鍬を持ち、外でかがむときはそれで穴を掘り、用をたしてから排泄物をおおわなければならない。あなたの神、【主】が、あなたを救い出し、敵をあなたに渡すために、あなたの陣営の中を歩まれるからである。



部下も律法をよく学び、従っていた！  
この適応は？だけど。



律法に守られ導かれている  
確信をダビデは強めよう

## 【サウルを見逃すダビデ】 I サムエル24:5~7

後になってダビデは、サウルの上着の裾を切り取ったことについて心を痛めた。

彼は部下に言った。「私が【主】に逆らって、【主】に油注がれた方、私の主君に対して、そのようなことをして手を下すなど、絶対にあり得ないことだ。彼は【主】に油注がれた方なのだから。」

ダビデはこのことで部下を説き伏せ、彼らがサウルに襲いかかるのを許さなかった。サウルは、洞穴から出て道を歩いて行った。

■手を汚さず身をきよめ、律法の本質に生きるダビデ。



## 【サウルに呼びかけるダビデ】 I サムエル24:8~10

ダビデも洞穴から出て行き、サウルのうしろから呼びかけ、「王よ」と言った。サウルがうしろを振り向くと、ダビデは地にひれ伏して、礼をした。そしてダビデはサウルに言った。

「なぜ、『ダビデがあなたに害を加えようとしている』  
と言う人のことばに、耳を傾けられるのですか。

今日、【主】が洞穴で私の手にあなたをお渡しになったのを、あなたの目はご覧になったのです。ある者はあなたを殺すようにと言ったのですが、私は、あなたのことを思って、『私の主君に手を下すことはしない。あの方は【主】に油注がれた方だから』と言いました。」



## 【サウルへの訴え】 I サムエル24:11~13

「わが父よ。どうか、私の手にあるあなたの上着の裾をよくご覧ください。あなたの上着の裾を切り取りましたが、あなたを殺しはしませんでした。それによって、私の手に悪も背きもないことを、お分かりください。あなたに罪を犯していないのに、あなたは私のいのちを取ろうと狙っておられるのです。

どうか、【主】が私とあなたの間をさばき、【主】が私のために、あなたに報いられますように。しかし、私はあなたを手にかけることはいたしません。

昔のことわざで『悪は悪者から出る』と言います。私はあなたを手にかけることはいたしません。」



## 【神への訴え】 I サムエル24:14~15

「イスラエルの王はだれを追って出て来られたのですか。だれを追いかけておられるのですか。死んだ犬の後でしょうか。一匹の蚤の後でしょうか。

どうか【主】が、さばき人となって私とあなたの間をさばき、私の訴えを取り上げて擁護し、正しいさばきであなたの手から私を救ってくださいますように。」

■ ダビデは、訴えの最後に、すべてを主にゆだねた。



## 【叫ぶサウル】 I サムエル24:16～18

「ダビデがこれらのことばをサウルに語り終えたとき、サウルは「これはおまえの声なのか。わが子ダビデよ」と言った。サウルは声をあげて泣いた。

そしてダビデに言った。「おまえは私より正しい。私に良くしてくれたのに、私はおまえに悪い仕打ちをした。

私に良いことをしてくれたことを、今日、おまえは知らせてくれた。【主】が私をおまえの手に渡されたのに、私を殺さなかったのだから。」

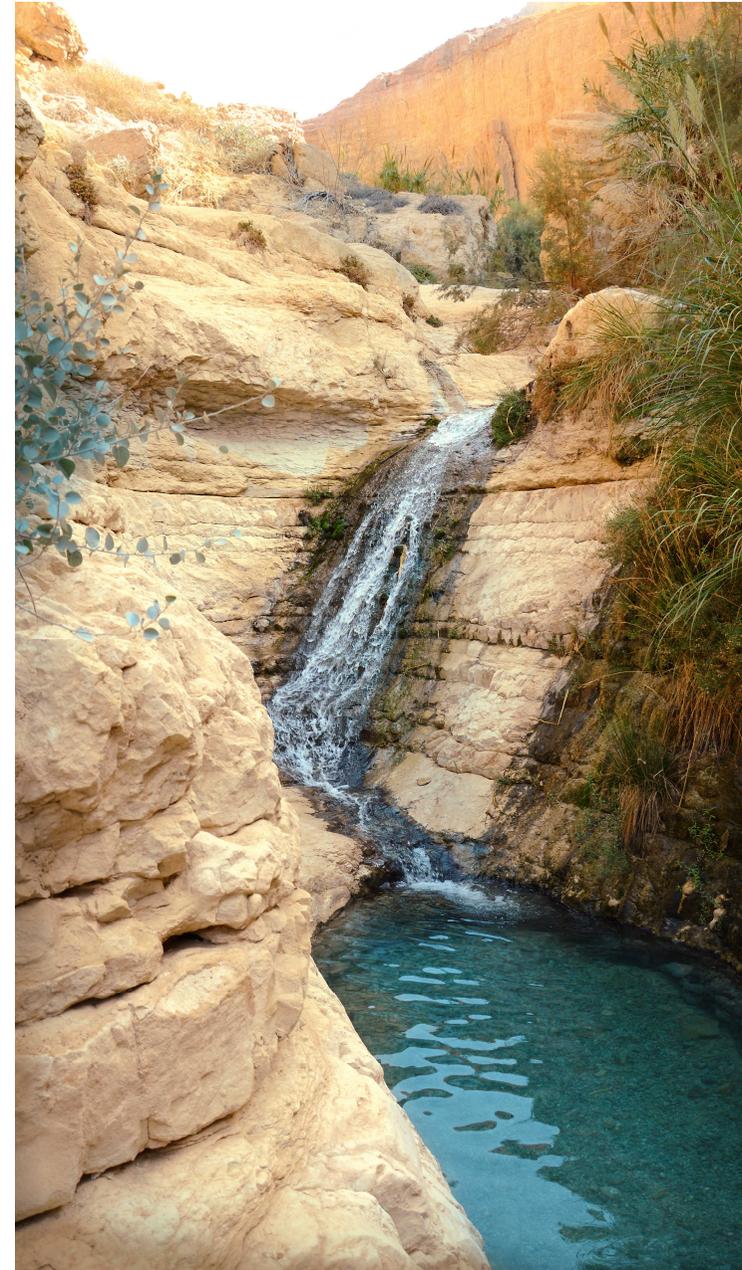


## 【御心を知ったサウル】 I サムエル24:19～20

「人が自分の敵を見つけたとき、その敵を無傷で去らせるだろうか。おまえが今日、私にしてくれたことの報いとして、【主】がおまえに幸いを与えられるように。

おまえが必ず王になり、おまえの手によってイスラエル王国が確立することを、私は今、**確かに**知った。\*」

■知識としては知っていた。この時はじめて、  
ダビデが王となることをサウロは実感した。



## 【誓い】 I サムエル24:21～22

「今、【主】にかけて私に誓ってくれ。私の後の子孫を断たず、私の名を父の家から消し去らないことを。」

ダビデはサウルに誓った。サウルは自分の家へ帰り、ダビデとその部下は要害へ上って行った。



# 詩篇 57 篇

指揮者のために。「滅ぼすな」の調べで。  
ダビデによる。ミクタム。

ダビデがサウルから逃れて洞窟にいたときに。



57:1 私をあわれんでください。  
神よ。  
私をあわれんでください。  
私のたましいは あなたに身を  
避けていますから。  
私は 滅びが過ぎ去るまで  
御翼の陰に身を避けます。

57:2 私は いと高き方  
神を呼び求めます。  
私のために すべてを成し遂げて  
くださる神を。

57:3 神は 天から助けを送って  
私を救い  
私を踏みつける者どもを  
辱められます。 セラ  
神は 恵みとまことを 送って  
くださいます。

57:4 私のたましいは  
獅子たちの間で  
人の子らを貪り食う者の間で  
横たわっています。  
彼らの歯は 槍と矢  
彼らの舌は 鋭い剣です。

57:5 神よ あなたが天で  
あなたの栄光が  
全世界であがめられますように。

57:6 彼らは 私の足を狙って  
網を仕掛けました。  
私のたましいは  
うなだれています。  
彼らは 私の前に穴を掘り  
自分でその中に落ちました。  
セラ

57:7 神よ

私の心は揺るぎません。

私の心は揺るぎません。

私は歌いほめ歌います。

57:8 私のたましいよ

目を覚ませ。

琴よ豎琴よ目を覚ませ。

私は暁を呼び覚まそう。

57:9 主よ 私は国々の民の間で あなたに感謝し  
もろもろの国民の間で あなたをほめ歌います。

57:10 あなたの恵みは大きく 天にまで及び  
あなたのまことは 雲にまで及ぶからです。

57:11 神よあなたが天で あなたの栄光が全地で  
あがめられますように。





## Ⅲ. まとめと適用      ダビデが見つかった希望の源

エン・ゲディ

## 【言い逃れの余地のないサウルの罪】

- 王権がはく奪され、主が新たな王を立てられたこと。  
ダビデこそ、神が選んだ王であること。いずれもサウルは知っていた。
- にも関わらず、むしろ、だからこそ、サウルは王権に固執し、  
ダビデの命を執拗に狙った。
- 命を助けられ、泣いて叫び、ダビデの王権を認めたサウルだが…。  
謝罪の言葉は口先だけで、元来た道に帰っていった。
- 本当にダビデを神が油注がれた王と認めたならば、  
サウルは、すぐさま王権をダビデに移譲すべきだった。

**行動が伴わないのは、悔い改めではない!!**

## 【ダビデに学ぶ、世の不条理と苦難の乗り越え方】

### ■常に何より優先すべきは、主に聴き従うこと。

ケイラの奪還もそこからの脱出も、ダビデは、主に忠実に従った。

➡人々の人望を得たことは、後の王政の下地となっただろう。

### ■敵への裁きは、主にゆだねること。主の權威を恐れること。

ダビデは、サウルに手をかけず、恐れをもって神の裁きに委ねた。

### ■ダビデは、この時代に第一に従うべき神の律法に忠実に従った。

「レビ記 19:18 あなたは復讐してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。わたしは【主】である。」

## 【ダビデの究極的な希望はどこにあったのか？】

- 苦難を通し、己の無力さを思い知らされたダビデが望んだのは、自分が王になることではなく、**真実の王が来られる**こと。
- ダビデの詩篇のそこかしこで歌われている、来るべきメシアの影。

57:2 私は **いと高き方** 神を呼び求めます。  
私のために **すべてを成し遂げてくださる神**を。

57:3 神は **天から助けを送って私を救い**  
私を踏みつける者どもを辱められます。セラ  
神は **恵みとまこと**を送ってくださいます。
- 女の子孫(創3:15)、ユダの子孫(創49:10)として来られるメシアこそ、**真実に油注がれた方**である。  
➔**メシアは、約束をすべて成就し、信じる者を救う、恵みと真実の神。**

## 【ダビデが信じ従ったこと。私たちが信じ従うべきこと】

- 信仰とは、神が示した約束への信頼の応答。
- ダビデは、律法による約束と、個人的神の語りかけを信じて従った。
- 今の時代に求められるのは、福音を信じ、キリストの律法に従うこと。  
信仰者の最大の使命は、福音宣教。  
み言葉の解き明かしによる訓練を受け、世に遣わされていく。
- 責任は、知識の量に比例する。聖書の学びを深めるほどに、神に応える責任は大きく問われていく。

**信じることは、当然、行うこと。行いのない信仰は死んだもの。**

## 【苦難の中であぶり出される私たちの信仰の本質】

- コロナ禍でむしろ、これまで以上に熱く伝道に燃えている人々がいる。  
➔この人々こそ、30倍、60倍、100倍の実を結ぶ人だと教えられる。
- この一年、何をしてきたか、してこなかったか、一人一人問われている。
- これからも歩み続けていくために、求められるのは信頼し続けること。
- 苦難は、己の無力さを突きつける。人に人の期待に応える余力はない。  
シンプルに、主に与えられた使命に生きよう。ただ、それだけでいい。
- これ以上そぎ落とすものなど何もない、主の永遠の真理に立とう。

**救いの御業を成し遂げた主イエスは、王の王として来られる!!**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主イエスは、聖書(せいしょ)が約束(やくそく)した、救(すく)いの御業(みわざ)をなしとげられました。

まもなく、王の王、裁(さば)き主(ぬし)として来られます。

天に挙(あ)げられる、その瞬間(しゅんかん)まで、忠実(ちゅうじつ)に主に従(したが)い、使命(しめい)に生きる者としてください。

よろこびをもって福音を告げ、苦難(くなん)の中でも淡々(たんたん)と聖書を学び、人々に解(と)き明(あ)かして行くことができますように。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン」